広報こすど
発行所　小須戸町公民館
発行人　間野良知
印刷所　玉庭印刷所
毎月1日
一部5円

花卉モデル集団産地育成事業の受入れ

花卉モデル集団産地育成事業は国が稲作からの転換作物として、また国民生活の高度化、多様化に伴い、花卉の需要は著しい伸びを示しているが花卉産地の現状は栽培農家の分散、技術水準の不揃、規格の未整備等とともに共同販売体制の遅れが目立ち花卉の需要の増大に対応した花卉産地の近代化を推進する趣旨で意欲のある産地に助成を行い近代的な共同利用施設を設置して、これを機軸とし産地の組織化を目的とした事業で国では昭和四十六年度から実施されたものであります。

四十六年度は、全国で八ケ所、予算総額五五、五八三千円で補助率三分の一で実施されましたが、四十七年度は全国で十五ケ所予算総額一〇四、二一八千円で補助率三分の一で予算約二倍となっています。

この事業を本町に四十七年度事業として、受入れ農家の稲作転換と併せて農業収入の増大を図り将来は小須戸町を花卉園芸の主産地とすると共に近隣産地も含めた集荷、流通の拠点となるよう強力に推進する考えであります。既に昨年より事業導入のため農協、園芸農家とも協議をすゝめ、県ならびに国に対し事業認可を得るべく計画を進めてまいりました。

事業計画の概要

現在、花木類の栽培面積は、一八ヘクタールであり主にサツキ、アザレヤの苗養成が行なわれ、露地栽培としては、寒梅ボケ等が生産されているが、目標年次(五十一年)には花木専業農家の育成水稲プラス花木復合経営の確立、生産調整による転換、転作の面積拡大を図り四〇ヘクタールとし生産数量は現在二六〇万本を目標年次には五七〇万本とするため次の施策を講ずる。

1. 栽培技術の確立
2. 施設の設置
3. 優良品種の導入
4. 種類品種の統一
5. 栽培農家及び作付規模の拡大
6. 水田転換、転作の推進
7. 土地基盤の整備
8. 市場、流通の調査
9. 出荷の近代化

花卉モデル集団産地育成事業としての実施事業の計画内容

※事業主体　小須戸町農業協同組合

1. 共同育苗施設の設置
花木類の主産地形成をはかるべく計画的に推進するため共同育苗ミスト装置付ガラス温室三棟六六〇平方米、育苗ビニールハウス三棟九九〇平方米を設置し優良苗木を生産し、計画生産、計画出荷の推進をはかる。
2. 優良原母本の導入
サツキ、アザレヤ類の優良原母本を導入し、品質の向上をはかるとともに、生産性の向上をはかる。
3. 集出荷施設の設置
共販体制の確立を実現するため、一棟三〇〇平方米の集出荷施設を設置し、出荷体制の整備強化をはかり計画出荷を行ない共販体制確立の拠点とする。

みごとさつきの花ざかり

第三日曜日は家庭の日です。
一家で楽しくすごしましょう。
明るい家庭づくり
矢代田指定地区

読書は心の糧

公民館図書をご利用ください。

最近公民館の図書をご利用なさる方がどんどんふえてまいりました。中には七十才以上のご老人で常連になっている方も数人あります。しかしなお常時三千余冊の本が皆さんに読まれることをお待ちしております。新刊書も次々と補充されております。

新体制をととのえた図書部も張りきって購入書の選定や、今後のより良い運営について検討しております。

今までは何か学習上の参考図書や学生向きの読物等がおろそかになっておった感がありましたがおいおいそうした面にも重点をおくことも考えております。放課後の児童生徒達が静かに公民館で読書をし、勉強をする、そんな状景も夢に描いております。老若男女を問わず全町民の教養の糧となるりっぱな図書室であることを最大のねがいとしております。

どうぞ皆さん。公民館の図書を最大限にご利用ください。そして何かご希望やご意見がありましたら遠慮なしにお申し出てください。（図書部）

◎夜間貸出し日のお知らせ

毎市日（三・八の日）
夜七時より八時まで
※日曜祭日でも、夜間は実施します。
※昼間は平日、九時より五時まで
土曜、十二時

国民年金保険料の納入方法が変わります!!

国民年金保険料を納める方法が今年の四月分から税金と同じように町内の各金融機関に納めていただくことになりましたのでご協力をお願いいたします。

方法は、各納期毎

第一期　六月三十日
第二期　九月三十日
第三期　十二月三十一日
第四期　三月三十一日

の金額を各金融機関に納めていただき、その領収書を国民年金手帳の検認記録欄にはっておいてください。

これをはっておきますと、国民年金手帳に印紙をはって検認したことと同じことになります。

万一、領収書を紛失した場合国民年金手帳を役場の係に提示して下されば、保険料納付済分の証明印を手帳に記入しておあげします。

また、前納を希望される方は今までどおり割引もありますので直接役場へお申しいでください。（電話、有線にても可）

保険料を金融機関に納めに行くことのわずらわしい方は、各人の預金口座より振替で納入できるよう金融機関と交渉中でありますので、決定次第承諾をいただきに上りますからご利用をお願いいたします。

わかりにくい点については住民課の国民年金係にお問い合わせください。（住民課年金係）

おめでとう

県展ご入選

第二七回県美術展覧会において、当町より出品したつぎのみなさんが受賞されました。

○書　道　横山　政男
〃　菊地　伸一
〃　坂井　石平
○洋　画　城丸　明男
○写　真　中村　真一

右のうち坂井さん、城丸さんはすでにレギュラーといってもよいベテランですが、菊地さんは昨年につづいて二回目、横山さんは初出品の初入選で大いに将来が嘱望されます。皆さん一そうのご精進をおいのりします。

心配ごとはありませんか ご相談を受けます

社会福祉児童問題等についてはつぎの方々が担当ですので、ご気楽にごそうだんください。

宮崎純能
二番、三番
四番、花見
東蔵、朝日
西幸、寿、下稲荷町
大関勝治　一番、神明、上田、栄、上中野、下中野町
広川末蔵　雁巻、泉、新町、渡場、上稲荷、諏訪町
長谷川淑子　土堤、住吉横町、東町、出雲町
渡辺熊太郎　五番、桜木山吹、鵜出古木
白井ミサヲ　学校町、横川浜
五十田清　小向
木村敬三郎　水田
松尾セツ　鎌倉新田
城丸富路　天ケ沢新田
保科正子　矢代田第一、二、三、四、五、六、十三常会
田沢清作　矢代田第七、八、九、十、十一、十二常会
高山太一郎　新保
楠原トヨ　竜玄新田

尚毎週月曜日、午前十時より午後三時まで「心配ごと相談」を開いておりますので、併わせてご活用ください。

＝民生課＝

少年補導員にご委嘱

右の方々が、県警察本部長より四十七年度、地区の少年補導員として委嘱されました。

竜玄　楠原　真次
矢代田　田沢タツヨ
竜玄　渡辺清次郎
（敬称略）

第11回 簡保作文コンクール 作文募集

郵政省では、簡易保険の相互扶助の思想普及のため、つぎの要領で「簡保第十一回全国児童生徒作文コンクール」の作文を募集することになった。

応募資格　小学五、六年生。中学生対象。
課題
①「簡易保険」または「これに関連するもの
②「自由題」
原稿枚数等
四百字づめ原稿用紙五枚以内。作品には、文題、氏名（ふりがな）住所、学校名、学年記入した応募票を一枚めの右上にはりつける。
応募受け付け
もよりの郵便局へ持参
締切り
四十七年六月三十日

賞※地方コンクール……学年別、都道府県別に五百二十五点に与える。

図書ご寄贈

○私は一七才（高校生文集）一〇冊
新保星清重さん
○天の音楽
三番町　森田政子さん
厚くお礼を申し上げます。

続小須戸風土記

小須戸町支配の人達

庄屋「坂井与次兵衛」

柏大治

宝永の次の年号が正徳であるが、正徳年間には各地方に大水害があいついで発生している。農民の苦しみは極度に達した。

義民庄屋中之島村の大竹与茂七等が直訴して三六人が新発田において断罰になったのもこの時代である。正徳二年六月十五日の水害は信濃川の大洪水で雁巻が破堤して、小須戸町はまともに濁流に呑まれた。砂押しで横川の地形が変ったといわれる程の水害で新保の神明社もこの時に流失している。小須戸は勿論、新保横川はこれがため数年間農作物が皆無といわれた。

この頃から文献の上で坂井氏の名前が消えてきた。享保四年に竜玄新田の医師渡辺梨庵が朝帝より拝領の従五位の位いの披露の手続きを庄屋坂井与次兵衛に依頼したが、手続きをして呉れないので、自から江戸へ登る途中小千谷で病気になり舟を引き近した等の渡辺文書がある。おそらく水難のため庄屋役の体面を維持できなく休役したと思われる。従って小須戸組は非常に難治の郷になった。

太次右ヱ門新田の坂井毅七氏の所蔵文書の中に其の後庄屋は茂林寺門前の借屋に住み、新発田藩から積年の功労として、三人扶知（一日米一升五合）を与へられて生活されたことが記されているが、享保九年にも庄屋坂井与次兵衛、寛延三年（一七五〇）にも名前がでているので退役されたのはかなり後のようだ。嫡子八兵衛（坂井与次兵衛と称す）も名主の養子になり色々苦労されて後に田上村の名主になった。享保三年（一七一八）に役人の異動があって、小須戸組の大庄屋に吉岡名兵衛の名前が記載されているが、この人もその後、文献にはとんどでていないので短期間で庄屋を辞したものと考えられる。現在の吉岡家とは別で白根の名主吉岡伊野七、吉岡新五右ヱ門の一族の人であろう。

次に小須戸組の構造を示すことにする。

訂正

前号小須戸風土記中、板井与次兵衛とありますが坂井与次兵衛のまちがいでありましたので、ここに訂正いたします。

※今月の納期は国民健康保険税二期、町県民税一期（六月十六日ごろ送付）

青年団で町政学習会

＝今年も一日研修＝

去る三月二十六日役場において「若人の集い」が行なわれた。これは町長を囲んでの「町政学習」青年の「生活」「余暇」を話し合う分散会という型式で午前十時～午後五時までの活発な対話集会であった。PR不足の為か参加者は五十名程度であったが、「今日集まった若者は一騎当千の人たち」と来賓の方々から特に激励のことばがあった。まず日程説明の後、町長より町政に関する説明が行なわれ、十ケ年計画の基本構想、生活環境、道路行政等巾広い分野から説明がなされた。又、青年の側から○公園がほしい○青年の家がほしい○町民体育館の自由な利用とスポーツ専任指導員がほしいなどの要望が出されたが、これに対して、○公園に関しては山手自然公園が十年計画に入っている。○間もなく完成する老人憩いの家も青年が利用できる。○町民体育館は中学校の体育館という基本方針になっているが一般の人の夜間利用は支障のない限り自由に利用できる（教育委員会公民館に許可申請書を提出して許可を得る）指導員の件に関しては、指導員はいるが要請があってから出ていくシステムであり青年がそれを知らないのではないか。又、専任を置くと人件費がかかるので学校の先生に依頼している。だが、下からの盛り上がりがあれば再検討する。との解答であった。

最後に町長より「次代を担う青年が町政に関心を持ってくれる事は大変喜ばしい事だ。二年前に連合青年団との対話の中で、献血運動を呼びかけたが、それを昨年「血液型登録名簿」作成という形で応えてくれた。今度は町でこの名簿を作りたい。これからも町政に関する学習を行なってほしい」との意見があり、これに対し青年側からも「今後もこういう機会を作って学習していきたい」ということで午前中の話し合いを終った。午後からは三つの分散会に分かれて、青年の生活と余暇を中心に話し合いが行なわれた。特に先般連青で行なった「青少年意識調査」のアンケートを中心に進められていたが友人関係、親子の対話、女子の習い物、学園問題等、ここでも巾広い対話が持たれていた。その後再び全体会を行ない、自由な話し合いで終始し、七時間にわたる活発な対話集会を終了した。

恋愛問題から公害問題まで

四ケ月がかりのアンケート

このアンケートは、連合青年団の文化教養部と女子部（部長加藤政明、吉田敏江）の共催で行なわれたもので、昨年十一月から着手し、今年に入って三月にようやく結果概要が出た。対象が十五才～二十五才の男女青少年で約一千部を配付し七百二十部を回収した。

これは連青団員が各戸へ直接訪問し二、三日後に再び訪問して回収する方法で行なったもので結果概要を出すのに三ケ月かかったという。連合青年団では、これを一冊の綴りにまとめ、全戸に配付したいといっているが現在作成中である。

内容は恋愛問題から国際問題、公害問題まで巾広く取り入れてあり、現代っ子気質を知るのに最適なものといえよう。

このアンケート自体に対する青少年の反応は、良い事だと思う（男七十四%、女五十六%）無意味である（男二十二%、女二十九%）わからない（男八%、女十五%）となっており、感想文の中に特に目立つものとしてこのアンケートを公表してほしいという声が大多数であった事から、連青では早急にまとめたいとしている。

小須戸小運動会

六月四日（雨天七日）八時三十分～三時多数おでかけください。願います。

第二十六回中学校創立記念式典

五月十二日、中学校では第二十六回の創立記念を迎え、それにふさわしい行事がもたれた。実際の創立記念日は五月十六日であるが、種々の都合で十二日に変更されたものである。

町体で、校旗入場に始まり、学校長の式辞・来賓の祝辞があって、めでたく終了。

続いて、旧体育館で映画「おとうちゃんのポーが聞こえる」を全校生徒で鑑賞した。最近めったに見なくなった映画ではあるが、内容のすばらしさに感動の涙を流す者もあり、生徒の中には「もう一度見たいや。ひっていいかった」と言う者もあり、よかった。

ただ感動させる場面で生徒の笑うのはどうしたことだろうか。照れくさいためか。

給食は、年間通して珍しい赤飯であり、創立記念を祝うにふさわしいもので、みんな大喜びだった。

消えない水害不安

矢代田の駅前

今年も又新しい年を迎えた。小須戸町に住む私達住民は、今年も又わが町が平穏無事な年であれと祈ってやまない。

昔からよく治にいて乱を忘れずと言われるが私共も常にこのことを忘れてはならないものである。あの悲惨な八・二八水害、本町もあの時は随所に被害をうけた思い出は忘れることはできない。ことに矢代田駅前の家屋浸水で大きな被害をうけた人達の脳裏にいつまでも消えない恐しさであろう。このような豪雨はそうあるものではないが、近頃は一寸した大雨でも矢代田駅前の道路は水で通行ができないようになる。これは大雨もさることながら排水が不十分な上に、土地の埋め立てなどが進み地形が変化したことが原因のようである。

水害によく鉄砲水がと言われるが、この地帯はまさにこの鉄砲水の被害をうける見本のようなものである。しかも水路がまがりまがっての排水であるから尚更恐ろしい地形であって、あの八・二八水害のような大雨、いやそれよりも降水量は少くなくても、地形の変化した今後の被害はあの時より倍も大きいことが予想される。

近頃の行政は一部の陳情、請願によってのみ施策が進められる、いわゆる陳情行政の弊がみうけられて、声なき声の広い視野よりみた大切な施策は遅れがちである。

当局では既に水害対策の構想も計画されてるかもしれないが、計画があっても、自然は実行まで待ってくれないものである。早急な実施計画を責任の立場にある地元の議員さんや、町長さんが表明されてくだされば幸いである。それでこそたわ事をいう住民も安心ができる。

矢代田駅前第九常会
水害に心配な住民

自然を守り
美しい町へ

土手が泣きます こわれます

恐しい洪水を防ぐためにみんなで堤防を大事にいたしましょう。

1.穴をほったり、空地と勘ちがいして畑にしたり、物を置きっぱなしにしたり、建物をたてたりしないでください。それは堤防にとっては死ぬような重傷なのです。

法律でもかたく禁じられています。

2.ゴミを捨てないでください。きたないだけでなくこわれる原因となります。それはゴミのために土や芝がくさり、土手がくずれだすのです。

又野ねずみやもぐらやみみずが巣をつくり、その穴に水が入って大事にいたります。昔から「千丈の堤も蟻の一穴から」と申します。

（産業課）

なぎさ

うれしい悲鳴

うれしい悲鳴という言葉がある。

最近の広報編集部がまさにそのことば通りである。各方面から寄せられる原稿が盛りだくさんで限られた紙面ではとてもの せきれないからである。しかたがないからつい時期や季節に関係ないものは翌月おくりとか、翌々月まわしということになる。せっかくのご寄稿に対して誠に申しわけないことであるがどうぞお許し願いたい。

しかし余るほどの原稿が寄るということは本当にありがたいことだ。

広報を愛し育てようとのあたたかいお心のあらわれで、編集部一同感激している次第である。

ただ広報は固くるしいお知らせ記事だけでは魅力がもたれない。皆さんが待っている広報、喜んで読まれる広報でありたい。そのためには今すこしやわらかい、心あたたまる、しかも興味ある記事を盛りたいと思う。たとえばちょっとした善行美談、かわった趣味に関するもの、随筆文芸作品などである。町や公民館等に対する要望や批判など建設的なご意見は大歓迎である。

どうぞ全町民皆さんの広報として今後共一そうのご支援をお願いするものである。

（広報部）

保健だより

◎注射手数料は1回150円です。

◎おつりのいらないようにお願いします。

◎問診票は忘れずにかいてください。

実施月日	時間	会場	対象	種別	備考
6.15	13.30～14.30	武道館	生後6カ月～老令者まで	日本脳炎	追加者
6.27	13.30～14.30	武道館	47.2.1～47.3.31 46.11.1～46.12.31	乳児検診	3～4カ月児 6～7カ月児

五月句会

小須戸町俳句同好会

石南花の庭や旅してみたくなり　越楼
蕗の葉につゝんでくれし初苺　芳人
一枚は鏡のような代田かな　香月
樅の木の若葉の緑勝りけり　梧桐
幾日も味噌煮る旅舘春深し　虚秋
雀らに屋根貸してあり藤の花　樫男
風薫る茄子むらさきを増して来ぬ　太浪
笹だんご造りに更けし過疎の村　杏水
走る火に人も走りて野火はげし　碧水

購入図書

◇あの子は帰らない　岡島八重子
◇日本の原点　林房雄
◇東へ走れ男と女　笹沢左保
◇結婚の夜　有馬頼義
◇この歴止・あの歴止・そして私　小田実
◇葉隠　神子侃
◇日本人の意識構造　会田雄次
◇花嫁の日　平岩弓枝
◇続・生命ある限り　曽野綾子
◇市民として（家庭）　松田道雄
◇市民として（社会）　松田道雄
◇まぼろしの橋　三浦哲郎
◇アメリカ再訪　江藤淳
◇夜の紅茶　江藤淳
◇門と倉　和田伝
◇司令長官の謎　原晃徳
◇休め！サラリーマン　新井喜美夫
◇慕末寄談　子母沢寛
◇埋もれた青春　デュ・モーリア
◇月の山のかなた　E・H・ウインター

※水難救助講習会六月三十日午前九時小須戸中、午後一時矢代田小にてご参加下さい。